もありますので、「このくらいの分量と内容の仕事なら、これくらいの時間と人数で」と見積もることができる「ピン」役の人が、企業の仕事を若者につなげられるのではないかと思います。あまり高度な仕事には向いていないかもしれませんが、ある程度、単純な仕事であれば、そんなに難しいものではありません。こうした働き方でも、どのような仕事ならば可能なのか、これからもどんどんと発掘していきたいと考えています。

学校の先生方にも、このような働き方の方法があることを、ぜひ知ってほしいと願っています。できれば先生自身にも体験してもらって、そこで感じたことを子どもたちに伝えてほしいですね。

――体験の大切さは理解できますが、それをどう伝えるかという問題もあります。

体験した人の言葉は、体験していない人とは重みが違ってくると思います。例えば、「悪いこと」といってもいろいろあるわけですが、学校の先生方はそういう体験が少ない人たちではないかと思います。そうすると「悪いこと」を「べつに、いいじゃん」と捉えがちな子どもと、体験したことがない先生の捉え方が違うので、ミスマッチが生じます。

今の子どもたちは「感性」という点では鈍い部分も多いのですが、「純粋性」という点では、そんなに昔と変わっていない。あるいは今の子どもの方が「素直」に受け止める部分があると思います。

学校に期待したいこと

――学校だけでできることにも限界がありますが、どのようなことを学校に望まれますか。

特に、子どもたちにとっては、「大人」と出会う機会をもっと増やしていくことが必要ではないでしょうか。今の子どもに、「知っている大人」を挙げてもらうと、両親などの家族以外では、コンビニの店員と塾の先生、学校の担任の先生程度で、10人を超えることはまずありません。私たちが子どものころは、近所の八百屋のおじさん、隣のうちのおじさん、おばさんなどをすぐに挙げることができました。大人と触れ合う機会が少ないのに、どうして大人になれるのかと感じます。そのような地域の大人と出会う場を、学校でも増やしてほしいですね。

――どのような「大人」との出会いが必要でしょうか。

大人といっても、「良い大人」だけではなく、時には「反面教師」的な大人を知ることも大切ではと考えています。「そんな大人にはなりたくない」という意識から、自分でいろいろと考えていくこともあるわけですから。「マイナスをプラスに変える」という発想は、学校の中だけだとなかなか出てこないことがあります。とにかく、いろいろな大人との出会いの機会があるといいですね。

不思議なことですが、子どもたちには「良い大人」よりも「悪い大人」の方が、かえってイメージが湧きやすいようです。「悪いこと」や「こういうことはやりたくない」ということをイメージして、そうならないためにはどうしたらいいのかを考える方が、イメージは具体的になるものです。

――NPOの活動として、将来やってみたいことは何ですか。

私たちとしては、将来は「職業学校」のようなものを創りたいと考えています。家庭が恵まれなかったり、貧困層と言われる人たちのための学校です。まずは全寮制などで食べることと住む所を確保して、勉強ができる場所を、企業などの協力も得て、創っていきたいですね。

NPO法人若者就職支援協会＝http://www.syusyokushien.com/